

日本バレーボール学会

第24回大会

開催日

2019年

3月2日(土)、3日(日)

開催場所

山梨学院大学スポーツ科学部棟 他

テーマ

これからの課外活動におけるコーチングを考える



主催:日本バレーボール学会

主管:日本バレーボール学会 第24回大会実行委員会

後援:山梨県教育委員会 公益財団法人 山梨県体育協会

公益財団法人 日本バレーボール協会 山梨県バレーボール協会



未来につながる
地域の絆

yamashin



日本バレーボール学会 第24回大会

プログラム・抄録集

テーマ

「これからの課外活動におけるコーチングを考える」

2019年3月2日(土)・3日(日)

山梨学院大学

主催：日本バレーボール学会

主管：日本バレーボール学会 第24回大会実行委員会

共催：山梨学院大学

後援：山梨県教育委員会、公益財団法人山梨県体育協会、

公益財団法人日本バレーボール協会、山梨県バレーボール協会

<目次>

<名誉会長挨拶：日本バレーボール学会 第24回大会開催 歓迎の挨拶>	1
<会長挨拶：日本バレーボール学会 第24回大会開催にあたって>	2
<日本バレーボール学会 第24回大会 組織委員会・実行委員会>	4
<これまでの大会>	5
<会場案内図>	8
<参加者へのお知らせ><一般研究発表者へのお知らせ>	9
<第24回大会内容のご案内>	10
<特別講演>	12
<シンポジウム>	13
<一般研究発表プログラム・抄録>	17
<オンコートレクチャー>	35
<一般研究発表者へのお願い>	36
<広告協賛企業・団体一覧>	37

ようこそ本学へ



大会名誉会長 古屋 光 司
(山梨学院大学 学長)

会員の皆様には、ようこそ山梨学院大学へお越しくございました。心から歓迎いたします。

甲斐路の春は梅の開花とともに訪れます。立春を過ぎ、キャンパスに隣接する梅の名所「不老園」が見ごろを迎えています。そんな好機に「これからのコーチングを考える」をテーマに第24回日本バレーボール学会大会が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

私も本年度から新理事長・学長として、「全学的国際化」「教育の質的転換」をスローガンに、「山梨学院新時代」への挑戦を加速しているところです。山梨学院創立72年という歴史を土台に、工夫と実践を重ね、社会的にも価値ある学園へと進化させていく所存です。これからも地域に必要とされ、愛される学園づくりを目指して参ります。

ところで、本学のカレッジスポーツ振興は1977年にスタートし、以来40年余り、全学を挙げて支援体制の充実に取り組んで参りました。お蔭様で、これまでに52名のオリンピックを誕生させることができました。

また、2016年には創立70周年記念事業の一環としてスポーツ科学部を開設し、スポーツを通じて社会に貢献できる人材の育成を目指して参りました。今後も学生スポーツ文化の創造と日本のスポーツへの貢献を目標に、アスリート人材と次世代指導者の育成に努めていく所存です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、関連施設の整備と世界の頂点を目指すアスリートの育成・強化に大きな関心が集まっています。こうした中で、スポーツ科学に裏付けられたコーチングに寄せる期待は、今後益々高まっていくものと思われまます。

貴学会が学生アスリートの強化・育成にとどまらず、地域社会などと連携しながら、競技スポーツや生涯スポーツの推進に更なる役割を果たされることを大いに期待するとともに、日本バレーボール学会の益々の発展と本大会の成功を心から祈念し、歓迎のご挨拶といたします。



＜会長挨拶＞

日本バレーボール学会第24回大会の開催にあたって

日本バレーボール学会 会長 河合 学（静岡大学）

この度、日本バレーボール学会第24回大会が山梨学院大学を会場として開催されるにあたり、会長としてご挨拶させていただきます。

2020 東京オリンピック・パラリンピックを控えた今、大学スポーツ界はスポーツ庁が中心となって大学横断的かつ競技横断的統括組織である「日本版 NCAA」設立を目指すことになり、2018 年 10 月にはその新組織が「一般社団法人 大学スポーツ協会 (UNIVAS)」として設立されました。この取組みは、これまで大学名を冠しながらも課外活動として実施されてきた大学の運動部活動に対し、今後は大学がより主体的に運動部活動に関わり、大学スポーツ推進のための学内体制整備を行うことを推奨する動きと言えます。また大学や競技種目を横断的に統括する組織を設けることで、スポーツ活動に従事する学生の学業がおろそかにならないこと、事件や事故が起こらない安全安心な活動をする、などで大学スポーツの活性化やさらなる発展を目指そうとする試みでもあります。歴史的に日本の大学スポーツは競技ごとの学生連盟などの競技団体が主体となり、各競技団体がそれぞれ独自の運営や管理体制のもとで独自の発展を遂げてきました。しかし大学側の立場で考えた場合、大学の運動部活動はあくまでも教育の一環として学生を中心として自主的に行われてきたため、大学の関与はあまりありませんでした。そのため選手が本分たる学業への時間を十分に取れなかったり、知識や情報不足、ルールの不整備等に起因した事故や怪我の増加などの問題が生じていました。現状では運動部活動に対する大学の関与が限定的であるため、十分にそのメリットを活かすことができていないと考えられます。そこで、大学スポーツの先進国である米国をベンチマークとして創設されるのが大学スポーツ協会です。米国では 100 年以上前から NCAA（全米大学スポーツ協会）が設置され、学業充実、安全健康、公平性の理念から、その実現・維持に取り組んできました。またその 3 つの理念を実現するための機関として、学内にスポーツ分野を統括するスポーツ局が置かれ、大学の主体的関与のもとで運営が行われています。結果として米国では、大学横断的かつ競技横断的統括組織である NCAA の機能・役割と、各大学が学内にスポーツ局を設置して大学スポーツを管理下において運営するという取組みが両輪となることで、大学スポーツ全体の発展を支えてきました。米国での成功（もちろん問題点もあるが）を参考に、大学スポーツ協会は各大学それぞれ

の課外活動の枠を超えて、大学スポーツの多面的な価値を発揮することが多いに求められています。＝スポーツ庁 HP 他参照＝

さて、今回の巻頭言で大学スポーツ協会のお話を取り上げたのには、もちろん理由があります。平成29年度にスポーツ庁が行なった「大学のスポーツ振興に関するアンケート」の結果をスポーツ庁のHPで閲覧したからです。私も勤務先の大学の実情について回答させていただいた身として、その結果を自身の回答と比べながら日本の大学の在り方に想いを馳せました。たとえば、「大学スポーツアドミニストレーターを置いているか」とか「指導者の選解任権に対応する部署があるか」など、大学が明らかに運動部活動に深く関与していると推定できる問いへのYesの回答はどれも5～7%程度であり、競技スポーツを実績として有する大学の割合は実質そのくらいなのかと推定される結果でした。そうなりますと現状では他の多くの大学が運動部活動に積極的に関わっていないと思われる状況の中で、大学スポーツ協会が期待通りに機能するのか心配になる結果ではないかと思っています。しかし大学スポーツにブランド価値がある以上、一部の大学であったとしても大学スポーツ協会の理念を浸透させて、より活発でより成果を上げられる活動を継続していき、それがいずれ全国の大学に普及していく、そのような夢を見たい気もします。少しでもその理念が成就されれば、大学にとっても学生の運動部活動にとっても、そして地域や競技団体にとっても良い結果をもたらしてもらえものと思っています。甚だ遠い目標かもしれませんがその途中経過となる2020東京オリ・パラでも大学生が選手としてもボランティアスタッフとしても多いに活躍してくれることを期待しています。さらに、今回の研究大会のテーマも「これからの課外活動におけるコーチングを考える」であることは、大学スポーツ協会の活動に関して一石を投じることができるかもしれないと密かに願っております。

結びに当たり、第24回大会の開催を快く引き受けてくださいました山梨学院大学関係者と実行委員の皆さま、そして講師として講演を引き受けてくださいます諸先生には厚く御礼を申し上げ、会長の挨拶といたします。

日本バレーボール学会 第24回大会

大会名誉会長：古屋光司（山梨学院大学学長）

大会会長：河合 学（日本バレーボール学会会長・静岡大学）

☆組織委員会

委員長：遠藤俊郎（山梨学院大学・JSVR 名誉会長）

副委員長：古澤久雄（かのやスポーツ研究所・JSVR 副会長）

黒川貞生（明治学院大学・JSVR 副会長），

石手 靖（慶応義塾大学・JSVR 理事長）

委員：（JSVR 理事）朝日健太郎（参議院議員），飯田周平（国士舘大学），板倉尚子（日本女子体育大学），内田和寿（京都光華女子大学），小川 宏（福島大学），久保田もか（長崎大学），後藤浩史（愛知産業大学），城成人（堺市立新檜尾台小学校），杉山仁志（武蔵丘短期大学），高根信吾（常葉大学），高野淳司（一関工業高等専門学校），高橋宏文（東京学芸大学），田中博史（大東文化大学），中西康巳（筑波大学），布村忠弘（富山大学），橋本吉登（三ツ境整形外科），濱田幸二（鹿屋体育大学），廣 美里（名古屋学院大学），松井泰二（早稲田大学），森岡裕策（公益財団法人 日本スポーツ協会），安田 貢（山梨学院大学），湯澤芳貴（日本女子体育大学），横矢勇一（大東文化大学），吉田清司（専修大学）

監 事：柏森康雄（JSVR 監事），廣 紀江（学習院大学・JSVR 監事）

☆実行委員会

委員長：安田貢（山梨学院大学）

副委員長：三井勇（山梨学院大学）

事務局長：安田貢（山梨学院大学）

会 場：○飯塚駿（山梨学院大学），加戸隆司（山梨県立甲府工業高等学校），

深澤智明（深澤スポーツ整体）、依田哲也（帝京第三高等学校）

会 計：○飯塚駿（山梨学院大学），田中喜久美（社会福祉法人 光風会），

東山昌央（山梨学院大学）

受 付：○木島章文（山梨大学），小野恭子（山梨県立白根高等学校）

記 録：○深澤智明（深澤スポーツ整体），水口潔（都留文科大学）

渉 外：○三井勇（山梨学院大学）、柳宏（都留文科大学）、飯田春彦（山梨県立白根高等学校），

杉山仁志（武蔵丘短期大学）

（○印：責任者）

<これまでの大会>

回	年月日	内容	開催場所
第1回	1996年 5月26日	・内外バレーボールの動向と今日の課題 ・バレーボール史抄 ・日本における6人制バレーボールの原点	早稲田大学
第2回	1997年 3月22日	・発展途上国のバレーボール政策と現状 ・21世紀を目指したコーチング	早稲田大学
第3回	1998年 3月28日	・温故知新—歴史に学ぶ ・ルールを考える	早稲田大学
第4回	1999年 3月21日	・'98バレーボール世界選手権を語る ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第5回	2000年 3月19日	バレーボール発展のための企業チームからの提言 ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第6回	2001年 3月18日	21世紀のバレーボールの在り方を考える ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	早稲田大学
第7回	2002年 3月17日	バレーボールは変わるか ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	大阪体育大学
第8回	2003年 3月23日	日本バレーボール再建へのシナリオ ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	明治学院大学 白金キャンパス
第9回	2004年 3月27・28日	バレーボール学会の足跡と展望 ・オンコートレクチャー(セッターの系統的コーチング) ・ワークショップ 一般研究発表 ・シンポジウムⅠ(バレーボールの授業展開を再考する) ・シンポジウムⅡ(コーチに要求される資質を再考する)	明治学院大学 白金キャンパス
第10回	2005年 3月26・27日	夢をかなえるバレーボール ・基調講演 一般研究発表 ・オンコートレクチャー	東京女子体育大学
第11回	2006年 3月4・5日	競技力向上のための育成システム ・フォーラム 一般研究発表 ・オンコートレクチャー	慶應義塾大学 日吉キャンパス

第12回	2007年 3月3・4日	次世代バレーボール選手の育成 ・フォーラム ・シンポジウム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表	大東文化大学 東松山キャンパス
第13回	2008年 3月22・23日	ひと、まち、地域を造るバレーボールの魅力 ・フォーラム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表 ・コミュニケーション・アゴラ	筑波大学 つくばカピオホール
第14回	2009年 2月28・3月1日	ジュニア育成のために…!わかりあえる仲間づくり ・基調講演 ・フォーラム ・一般研究発表 ・特別講演 ・オンコートレクチャー	夙川学院短期大学
第15回	2010年 3月27・28日	小学校・中学校および高等学校の現場を考える ・特別記念講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー	文京学院大学 女子中学校・高等学校
第16回	2011年 2月26・27日	性差を考慮したコーチングを考える ・基調講演 ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー	日本女子体育大学
第17回	2012年 3月3・4日	復興・再生におけるスポーツの貢献を考える ・フォーラム A・B ・シンポジウム ・オンコートレクチャー ・一般研究発表	慶應義塾大学 日吉キャンパス
第18回	2013年 2月23・24日	世界トップレベルから見た日本のバレーボールの 現状と課題 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表 ・キーノートレクチャー	武蔵丘短期大学
第19回	2014年 2月15・16日	コーチング力を探る ・特別講演 ・シンポジウム ・ワークショップ ・フォーラム ・一般研究発表	鹿屋体育大学
第20回	2015年 3月7・8日	RIO 2016 そして TOKYO2020 へ ～ブラジルに学ぶ～ ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・フォーラム ・一般研究発表	早稲田大学
第21回	2016年 3月19・20日	セッターに求められるスキルと戦術 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・フォーラム ・オンコートレクチャー	明治学院大学 白金キャンパス
第22回	2017年 3月11・12日	2016 リオ五輪を総括し、2020 東京五輪を考える ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・オンコートレクチャー	国士舘大学 世田谷キャンパス

第23回	2018年 3月17・18日	東京五輪の先を見すえて ・特別講演 ・基調講演 ・シンポジウム ・オンコートレクチャー	名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス
第24回	2019年 3月2・3日	これからの課外活動におけるコーチングを考える ・特別講演 ・シンポジウム ・一般研究発表 ・オンコートレクチャー	山梨学院大学 甲府酒折キャンパス

※第1回から第4回までは「バレーボール研究会」として、第5回から第14回までは「バレーボール学会」として、第15回以降は「日本バレーボール学会」として、学会の名称も変化しつつ今日まで継続的に開催してきた。

<参加者へのお知らせ>

- 1) 学会参加者は事前登録、当日登録ともに参加受付を行ってください。第1日目は12:30～、第2日目は9:15～、両日ともに山梨学院大学スポーツ科学部棟1階にておこないます。受付では、受付・大会参加費の支払い・ネームカードおよび領収書の受け取りをおこなってください。事前登録をおこない、既に大会参加費をお支払いの方はネームカードと領収書を受け取ってください。ネームホルダーは、会場内において必ず着用してください。なお、1日目に受付を済まされた方は、2日目に再度受付をする必要はありません。

カテゴリー	参加費（事前登録）	参加費（当日登録）
学会員（一般）	4,000円（2日間）	5,000円（2日間）
学会員（学生）	無料	無料
非会員（一般）	2,500円（1日）	3,000円（1日）
非会員（学生）	1,500円（1日）	2,000円（1日）

※ 学生（大学生および大学院生）として参加申し込みされた方は、当日、受付で学生証の提示をお願いします。但し、高校生以下は無料（大会プログラムも配布）です。

※ 小、中、高校生を引率される指導者の方は事前に事務局へ御連絡ください。また、当日参加については受付に申し出てください。本学会大会の開催趣旨から参加費無料と致します。

- 2) 日本バレーボール学会の年会費を未払いの方は、年会費をお支払いになり、領収書をお受け取りください。
- 3) 学内の建物内は、すべて禁煙となっています。
- 4) 学内食堂は営業していません。昼食は、大学周辺でお済ませください。
- 5) 情報交換会を3月2日（土）17:00～キャンパスカフェテリア2階「プルシアンブルー（学食）」にて開催します。より多くの方の参加をお願いいたします。
- 6) 本大会は公益財団法人日本バレーボール協会「都道府県別バレーボール指導者研修会」に充当し、公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（バレーボール）の更新に必要な研修として位置づけられます。大会1日目に受付を行ってください。大会参加費とは別に研修料1,000円を徴収します。また、MRS登録番号が必要になります。

<一般研究発表者へのお知らせ>

- 1) ポスターパネルの大きさは縦210cm、横90cmとなります（パネル最上部10cmは演題番号に使用します）。ポスターの貼り付けは事務局で準備した画鋏またはテープを使用してください。
- 2) ポスターパネルには演題番号を記しておきますので、ご指定のパネルにポスターを掲示してください。
- 3) ポスターの掲示は、なるべく3月3日（日）の受付後すぐにおこない、発表終了後、撤去をお願いします。パネルの片付け時に残っていたポスターは事務局で処分します。
- 4) ポスターの発表時間は3月3日（日）10:40～12:00になります。その時間帯はポスターの前で待機をし、質問者に対するの対応をお願いします。
- 5) ポスターは上部20cm程度の幅に題名と演者名を記し、それ以降は自由な形式で作成ください。
- 6) 配布資料がある場合は資料を30部程度ご持参ください。なお、大会当日事務局においてコピーのサービスは対応できませんので予めご了承ください。

日本バレーボール学会 第24回大会内容のご案内

場所：山梨学院大学 甲府酒折キャンパス
〒400-8575 山梨県甲府市酒折 二丁目4番5

テーマ：「これからの課外活動におけるコーチングを考える」

第1日目 2019年3月2日(土)

12:30～ <受付開始> スポーツ科学部棟1階 エントランス

13:00～13:10 <開会の挨拶> 16号館101講義室
遠藤 俊郎 (第24回大会 組織委員長)
河合 学 (日本バレーボール学会 会長)
古屋 光司 (第24回大会 名誉会長・山梨学院大学 学長)

(休憩10分)

13:20～14:20 <特別講演> 16号館101講義室
【テーマ】地域経済活性化とスポーツ振興～山梨中央銀行の取り組み～
司会：三井 勇 (山梨学院大学 准教授)
演者：進藤 中氏 (山梨中央銀行 代表取締役会長)

(休憩15分)

14:35～16:35 <シンポジウム> 16号館101講義室
【テーマ】中学・高校におけるコーチングを考える
司会：安田 貢 (山梨学院大学 准教授)
演者：山田 芳樹氏 (山梨県教育庁スポーツ健康課 課長補佐)
笠野 英弘氏 (山梨学院大学 准教授)
アーマツ・マサジェディ氏 (VC長野トライデンツ コーチ)
増村 雅尚氏 (崇城大学 准教授)

(休憩25分)

17:00～19:00 <情報交換会> カフェテリア2階「プルシアンブルー」

第2日目 2019年3月3日(日)

9:15～ <受付開始>

10:00～10:30 <総会> スポーツ科学部棟1階 101講義室

10:40～12:00 <一般研究発表 ポスターセッション> スポーツ科学部棟2階

12:00～12:50 <休憩>

12:50～14:35 <オンコートレクチャー> スポーツ科学部棟1階 多目的実習室

【テーマ】現場に活かせるスポーツバイオメカニクス

司会：深澤 智明（深澤スポーツ整体）

講師：増村 雅尚氏（崇城大学 准教授）

指定討論者：加戸 隆司氏（山梨県立甲府工業高等学校 教諭、男子バレー
ボール部監督）

14:40 <閉会の挨拶> スポーツ科学部棟1階 多目的実習室

黒川 貞生（日本バレーボール学会理事）



特別講演

株式会社山梨中央銀行

代表取締役会長

進藤 中（しんどう なかば）

<経歴>

- 1972年 3月 中央大学経済学部卒業
- 1972年 4月 株式会社山梨中央銀行入行
- 2003年 6月 取締役人事部長
- 2005年 6月 常務取締役経営企画部長
- 2009年 6月 代表取締役専務
- 2011年 6月 代表取締役頭取
- 2014年 6月 公益財団法人山梨県体育協会 副会長（現在に至る）
- 2014年 6月 山梨県企業スポーツ連絡協議会 会長（現在に至る）
- 2017年 6月 代表取締役会長

地域経済活性化とスポーツ振興～山梨中央銀行の取り組み～

1. 山梨県企業スポーツ連絡協議会の発足
2. 9人制女子バレーボール部の誕生
3. 「かいじ国体」
4. 女子バレーボール部、「かいじ国体」後の活動
5. 9人制から6人制への移行
6. サッカー「ヴァンフォーレ甲府」の支援
7. 県営陸上競技場のネーミングライツ取得
8. バスケットボール「QUEENBEES」の支援



シンポジウム

山梨県教育庁スポーツ健康課
保健給食担当 課長補佐
山田芳樹（やまだ よしき）

〈経歴〉

1988年	早稲田大学卒業
1988年～1991年	東レアローズ選手
1992年	山梨県立甲府第一高等学校教諭
1993年～2001年	山梨県立上野原高等学校教諭
2002年～2014年	山梨県立日川高等学校教諭
2015年～	山梨県教育庁スポーツ健康課

やまなし運動部活動ガイドラインの現状と課題

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものとして学校教育の一環として行われ、本県のスポーツ、文化、科学等の振興を大きく支えてきた。

また、部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教員等との好ましい人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、大きな教育的意義を有するものとして、各学校において活発な活動が行われている。

しかし、社会・経済の変化等に伴い、教育等に関わる課題は複雑化・多様化し、子供たちの教育環境を取り巻く状況も大きく変化しており、部活動についても、部活動指導が教員の長時間労働につながっていることや、適切な休養を伴わない行き過ぎた活動による授業への影響やスポーツ障害の懸念など、様々な課題が指摘されている。

こうしたことから、運動部活動については、少子化が進展する中、将来においても、全国の生徒が生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む基盤として運動部活動を持続可能なものとし、ニーズに応じた活動ができるよう、平成30年3月にスポーツ庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、これを踏まえた活動方針の策定を、都道府県教育委員会及び市町村教育委員会等に求めた。

このようなことから、県教育委員会では、中学校、高等学校及び特別支援学校を対象とし、生徒にとって望ましい運動部活動の環境を構築するという観点に立ち、運動部活動が地域、学校等に応じて最適な形で実施されるよう、県教育委員会及び市町村教育委員会、学校における体制整備等を推進するため、「やまなし運動部活動ガイドライン」を策定するに至った。

このたびの、「やまなし運動部活動ガイドライン」の策定を踏まえ、調査結果から得られた学校等における運動部活動の実施状況について把握し、生徒にとって望ましい運動部活動の環境等について考える機会とする。



シンポジウム

山梨学院大学 スポーツ科学部
准教授
笠野英弘 (かさの ひでひろ)

<経歴>

- 2004年4月 筑波大学卒業後、ドイツ5部リーグ「1.F.C.Reimsbach」へサッカー留学
- 2005年6月 株式会社セリエ (サッカー・フットサル大会企画・運営)
- 2006年4月 独立行政法人日本スポーツ振興センター (総務部、スポーツ振興事業部(toto))
- 2012年4月 筑波大学・体育系・特任助教
- 2016年4月 山梨学院大学・スポーツ科学部・准教授

2009年3月に筑波大学(社会人)大学院・修士課程・体育研究科・スポーツ健康システム・マネジメント専攻を修了、2012年3月に筑波大学大学院・博士後期課程・人間総合科学研究科・体育科学専攻を単位取得満期退学し、2015年2月に博士学位取得。博士(体育科学/筑波大学)。

専門はスポーツ社会学、スポーツ組織論。日本・ドイツ・ブラジルにおけるサッカーを中心としたスポーツ組織と行為者の社会的性格との関係について研究。

山梨学院大学サッカー部・部長、一般社団法人総合型地域 U-sports club 山梨・理事、公益財団法人日本スポーツ協会・スポーツの組織的統括性からみたスポーツ人口等実態調査プロジェクト委員、日本サッカー協会公認サッカーC級コーチ・フットサルC級コーチ

<http://www.ygu.ac.jp/profile/h-kasano.html>

学校運動部活動の問題については、スポーツ社会学領域でも様々な観点から議論がなされているが、それらを網羅的に示して解説することは演者の力量では成し得ない。そこで、スポーツ庁が平成30年3月に示した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(以下「ガイドライン」)に関して、スポーツ社会学的な視点(スポーツと体育、生涯スポーツと競技スポーツ、自発的と強制的、生徒(保護者)と教師など)とそれらの視点による捉え方をいくつか紹介するとともに、演者自身の研究対象の1つであるスポーツ組織(スポーツ競技団体)に焦点を当て、スポーツ組織との関係から学校運動部活動の関連諸問題に対する1つの考え方を示したい。ガイドラインには、学校運動部活動におけるスポーツ組織の役割が若干示されているが、本発表では、特に指導者制度やコーチングの在り方等に関して、スポーツ組織の主体的・積極的な姿勢が求められることを指摘したい。また、演者の直近の調査結果であるドイツ(アマチュアクラブでは週に2回程度の練習しかない!)やブラジル(ブラジルではアマチュアは練習をしない!)におけるサッカーの状況等についても紹介し、学校運動部活動や中学・高校におけるコーチングを考える新たな視点を提供することができれば幸いである。



シンポジウム

VC 長野トライデンツ コーチ

Ahmad masajedi (アーマツ・マサジェディ)

<経歴>

- 1998年 イラン代表 バレーボール男子世界選手権出場
- 2011年 イラン代表 アシスタントコーチ
- 2015年 全日本男子代表 アドバイザーコーチ
- 2016年 ジェイテクト STINGS コーチ
- 2017年 ジェイテクト STINGS 監督
- 2018年 VC 長野トライデンツ コーチ

まずは選手の能力をリスペクトし、信じること。すべての選手は能力を有している。コーチは暴言などを吐いて選手の成長を邪魔してはならない。選手たちのやる気を引き出すような発言をすべきである。コーチは選手一人ひとりの成長速度が異なり、特に高身長選手はスキルの習得や向上が遅く、忍耐力が伴うことを理解している。コーチは選手自らになりたい選手に育つことを支援するのであって、コーチが育てたい選手に育てるのではない。選手は優秀なリベロ、レシーバー、セッター、アタッカー、ミドルブロッカーに成りえる。コーチはそのことを理解しなければならない。

チームのすべての選手に気を配り、選手が練習を楽しめるようにする。バレーボールは団体競技なのですべての選手に役割がある。選手の能力を向上させるため、選手一人ひとりに何が必要かを明確にする。技術はあるがフィジカルが劣っている選手、またはその逆の選手もいる。選手一人ひとりを伸ばすためには個人差を考慮し、選手を分けてバレーボールに必要な技術面またはフィジカル面の個別トレーニングを30~40分ほど行うとよい(技術面では、レセプション、セット、アタック、ディグの向上であろう。フィジカル面ではスピードとパワーの向上であろう)。個別トレーニングでは選手に何が必要であるのかを明らかにする。選手の競技レベルに関わらず、難易度や強度を低いものから徐々に高める練習が望ましい。コーチが真剣かつ丁寧に指導し、チームや選手が成長すれば選手たちはさらにバレーボールが楽しめます。

説明は端的に、目的を明確に伝えること。コーチが説明に時間を費やすよりも選手にボール練習する機会を与えた方が技術の上達に役立つ。ミスは上達するための学習の一部です。選手が新たな技術を習得したいときは、正確な技術を学ぶために可能な限りボール練習を行うべきです。コーチは選手に何が必要かを伝えれば、選手は何が必要かを理解し、技術を向上させます。

紙面の都合上、要点のみ挙げます。選手の能力に基づいて目標を決める(見つけ出す)。選手には前向きで明確なフィードバックを伝える。選手の集中力を持続させるため、練習中は様々な練習を取り入れる。可能な限り試合をイメージして練習をする。選手の思い違いを見極め、それらを修正する。褒めるときはチームメイトの前で、注意するときは個別に行う。練習中は可能な限りボールを使う。少年期にある選手にはシンプルなルールで練習する(簡単な決め事を作り練習する)。時には選手自身に別の良い解決策を見つけて出させる(解決方法は1つではないことを伝える)。選手の良き手本になること。可能な限り選手がバレーボールの試合を観戦するように促す。



シンポジウム

崇城大学 総合教育センター
准教授
増村雅尚(ますむら まさなお)

<学歴>

- 1999年3月 筑波大学 体育専門学群 卒業(体育学士)
1999年4月 筑波大学 大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻 入学
2005年3月 筑波大学 大学院修士課程体育研究科コーチ学専攻 修了 修士(体育学)
2005年8月 筑波大学 大学院人間総合科学研究科体育科学専攻 研究生
2006年4月 筑波大学 大学院博士後期課程人間総合科学研究科体育科学専攻 入学
2012年3月 筑波大学 大学院博士後期課程人間総合科学研究科体育科学専攻 単位取得後退学
(職歴・社会における活動は「オンコートレクチャー」参照)

スポーツバイオメカニクスを利用したコーチング

スポーツバイオメカニクスは Sport(スポーツ)+Bio(生体)+Mechanics(力学)という造語であり、力学、生理学、解剖学などの基礎知識を活用して、身体運動の仕組みをよりよく理解し、スポーツにおける身体の動きを力学(物理学)的観点から研究する基礎的スポーツ科学である。動作を改善するための第一歩は指導者の眼、運動する人の感覚や感じ、更に VTR などの客観的手段などを用いて運動者の動きを観察し、その実態を捉えることだと考える。バイオメカニクスの計測手法を利用した客観的観察手段には手間暇がかかるが、繰り返し詳細な観察や分析ができるという長所がある。

現在、動きの観察はビデオの数値化(データ化)+解析によって行われている。即時的な分析が可能な3D モーションキャプチャなど、人体にセンサーを設置し、動きをコンピュータに取り込む技術がある。リアルタイムに画面上のCG キャラクターを動かす、人体の動作や表情をアニメーションの素材にするなどの画像素材としての活用や、運動生理学などの研究の場で、人体の動作の解析に利用されるなど、さまざまな現場で応用されている。

しかしながら、機材があれば、簡便かつ効率的に指導が行え、逆に高価な機材などがないと指導が不能になるかといえばそうではないと考える。私が指導の現場で活かせるものといえば、スポーツバイオメカニクスの思考を挙げる。どのように動いているのか、どのように動けば効率よく動けるのか、打力を上げるには?ジャンプ力を上げるには?私が指導の現場で重要視しているものは「自分自身がどのように動いているのかわかること」を挙げる。高価な機材からオノマトペまで様々な方法を活用し、指導者は対象者がどのように動いているのか伝えることができ、どのように動けばよいのかを伝えられることが重要であると考え。言葉で伝える、身振り手振りで伝える、映像をみせる、一緒に動くなど、指導対象に応じた伝え方を模索し、「今の自分の動き」が正確に理解できることが、動き修正や創造に繋がっていくと考える。

＜一般研究発表プログラム・抄録＞

演題番号 No.1

高校生バレーボール選手の急性外傷・慢性障害の受傷傾向

- 藤井壮浩（東海大学 体育学部），一関侃（東海大学 スポーツ医科学研究所），
清水理咲（東海大学 法学部），宮崎誠司（東海大学 体育学部），
小澤翔（東海大学 体育学部）

演題番号 No.2

女子バレーボール選手におけるアキレス腱の形態，足関節の力学的特性および
下肢筋力の左右脚の比較検討

- 吉村真美（中京大学）

演題番号 No.3

大学バレーボール選手における在学中の体力推移：J-Fit⁺ Study

- 河村剛光（順天堂大学 スポーツ健康科学部）
中田学（順天堂大学 スポーツ健康科学部）

演題番号 No.4

ジャンプフローターサーブに対するレセプションの人数に関する比較
～男子ブラジル・ポーランドナショナルチームにおける2014年と2018年の比較～

- 手川勝太郎（神戸市立大原中学校）

演題番号 No.5

得失点とサーブ権による勝利期待値の推定

- 佐藤文彦（株式会社 DELTA）

演題番号 No.6

大学男子バレーボールチームにおけるレギュラーと非レギュラーの体力測定データの
比較

- 佐藤裕務（NSCA ジャパン），伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），
松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

演題番号 No.7

バレーボールの様々なディグ場面におけるシチュエーション

- 村田勇人（法政大学 大学院スポーツ健康学研究科），吉田康伸（法政大学 経営学部），
山田快（法政大学 経済学部）

演題番号 No.8

バレーボールにおけるキャッチの判断要素に関する研究
～ボールと手の接触時間からの検討～

- 縄田亮太（愛知教育大学），槇田諭（佐世保工業高等専門学校）

演題番号 No.9

バレーボールクラブの運営に関する一考察

～MOVEMENT VOLLEY-BALL LYSSOISの取り組みに着目して～

○佐藤国正（桐蔭横浜大学），佐藤浩明（郡山女子大学）

演題番号 No.10

タイムアウトは相手チームのブレイクを阻止する有効な手段か

○高根信吾（常葉大学），村本名史（常葉大学），安田貢（山梨学院大学），
塚本博之（静岡産業大学），瀧澤弘光（常葉大学），河合学（静岡大学）

演題番号 No.11

大学バレーボールにおけるブロック参加人数の違いによるアタック貢献度の分析

○伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），佐藤裕務（NSCA ジャパン）
市川智之（長岡工業高等専門学校），松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

演題番号 No.12

タイムアウト取得に関する指導者の意識調査～静岡県と山梨県において～

○村本名史（常葉大学），高根信吾（常葉大学），安田貢（山梨学院大学），
塚本博之（静岡産業大学），瀧澤寛路（常葉大学），河合学（静岡大学）

演題番号 No.13

バレーボール競技のブロックスキル指導時における指導者の視線行動

○中田学（順天堂大学 スポーツ健康科学部），
河村剛光（順天堂大学 スポーツ健康科学部）

演題番号 No.14

全日本高校選抜合宿参加バレーボール選手の心理的特性に関する研究

～性差とTSMI, SCAT, MPIに着目して～

○飯塚駿（山梨学院大学），遠藤俊郎（山梨学院大学），三井勇（山梨学院大学），
安田貢（山梨学院大学）

演題番号 No.15

ラインジャッジにおける人間の認知限界の検討

Discussion of the human's recognition limit in the line judge

○三村泰成（鶴岡工業高等専門学校）

演題番号 No.16

男子バレーボールにおける攻撃に対するブロックの様態

○松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院），
伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），
佐藤裕務（NSCA ジャパン），甲斐麻見子（早稲田大学 スポーツ科学研究科），
市川智之（長岡工業高等専門学校），多治見麻子（トヨタ車体クインシーズ），
吉田清司（専修大学）

<一般研究発表 演題番号No. 1>

高校生バレーボール選手の急性外傷・慢性障害の受傷傾向

○藤井壮浩（東海大学 体育学部），一関侃（東海大学 スポーツ医科学研究所），
清水理咲（東海大学 法学部），宮崎誠司（東海大学 体育学部），
小澤翔（東海大学 体育学部）

【キーワード】 バレーボール，下肢，急性外傷，慢性障害

【緒言】

バレーボール競技は，頻回のジャンプ動作による着地衝撃や下肢の筋疲労から誘発される急性外傷・慢性障害が多いことが知られている．特に高校生バレーボール選手では膝関節，足関節，脛部などの下肢の外傷・障害が多いと言われている．これらの部位を中心とした外傷・障害は，膝蓋腱炎や過労性脛骨骨膜炎，足関節捻挫など，疼痛が長期に渡るものや反復しやすいものも多く，結果的に長期の練習の中断を余儀なくされるか，痛みを抱えたままプレーを続ける場合が多い．そこで本研究は，現症状があるものと既往歴とを比較し，高校生バレーボール選手の外傷・障害発生の傾向を検証する．

【対象と方法】

対象は，高校生のバレーボール選手760名（男性：307名，女性453名）とし，下肢の外傷・障害に関する調査を行った．本調査では，「一週間以上練習を休まなければいけない痛みのある」部位を，股関節，大腿部前面，大腿部後面，膝関節，脛部，ふくらはぎ，足関節，足底部，足甲部，足趾，アキレス腱，その他の項目に分類し，急性外傷と慢性障害の現症状と既往歴の件数を調査した．

【結果及び考察】

高校生バレーボール選手では，男女ともに，足関節，膝関節，脛部の外傷・障害が多く，男女の全外傷・障害件数551件のうち，足関節151件（27.4%），膝関節146件（26.4%），脛部83件（15.0%）であった．3つの部位の外傷・障害の現症状や既往の調査では，膝関節では，146件全40名のうち12名（30.0%）が，脛部では全83件42名のうち14名（33.3%）が過去にも同部位の慢性障害の既往を有し，現在慢性障害を有する選手は，過去にも同部位の慢性障害の既往があることが多かった．足関節では，全151件64名のうち28名（43.7%）が過去に同部位の急性外傷の既往があり，現在急性外傷を有する選手は，同部位の急性外傷の既往が多いことがわかった．

この結果は，受傷後に，十分な組織修復期間を得られていないか，組織は修復していても，受傷要因となる動作の修正がなされていない可能性が示唆された．今後アスリートの外傷・障害発生時には，疼痛原因を究明し，疼痛の根本的解決をしたうえでプレーに復帰させることで，長期的な競技離脱や痛みによる筋動員パターンの変化を避けることを可能にし，結果的に競技力のさらなる向上につながると考えられる．

【本研究のセールスポイント】

国内でバレーボール選手を対象とした外傷・障害の調査自体が他の競技と比較してもまだまだ少ない．独立行政法人日本スポーツ振興センターや公益財団法人スポーツ安全協会による調査報告から外傷・障害部位や内容について知ることは可能ではあるが，部活動での外傷・障害発生すべてを網羅することはできない．ポジション別での比較や男女比較をしたものはあるが，外傷・障害の発生の傾向について調査したものはない．

< 一般研究発表 演題番号 No. 2 >

女子バレーボール選手におけるアキレス腱の形態，
足関節の力学的特性および下肢筋力の左右脚の比較検討

○吉村真美（中京大学）

【キーワード】 ジャンプ高，アキレス腱長，アキレス腱厚，足関節スティフネス，足関節筋力

【目的】

女子バレーボール選手における左右非対称のジャンプ動作がアキレス腱の形態，足関節の力学的特性および足関節底屈・背屈筋力に及ぼす影響を明らかにすること。

【方法】

被験者は大学の体育会系クラブに所属する女子バレーボール選手 20 名（年齢：20±1，身長：169.8±5.9，体重：63.6±7.0）とした。ジャンプ高として，マルチジャンプテストを用いて，スクワットジャンプ (SJ) 高，カウンタームーブメントジャンプ (CMJ) 高，リバウンドジャンプ (RJ) 高，左右脚それぞれの片足ジャンプ高を測定した。いずれのジャンプも腕振りなしで測定を行った。アキレス腱の形態として，超音波断層装置を用いてアキレス腱長とアキレス腱厚を測定した。さらにアキレス腱長を下腿長で除したアキレス腱長/下腿長比を算出した。足関節の力学的特性として，多用途筋機能運動評価装置を用いて足関節背屈角度と足関節受動トルクを測定し，これらから足関節スティフネスを算出した。下肢筋力として，多用途筋機能運動評価装置を用いて 180degree/sec での足関節底屈・背屈筋力を測定した。

【結果】

本研究では，バレーボールのスパイクジャンプ直前に地面に接地する足が後ろになる方を踏み込み足，前になる方を蹴り足として比較した。SJ 高，CMJ 高および RJ 高はそれぞれ 28.6±4.4cm，31.1±3.8cm，28.8±4.0cm であった。片足ジャンプでは，脚間で有意差はなかった。アキレス腱の形態では，アキレス腱長/下腿長において蹴り足で有意に大きかった。アキレス腱厚においては脚間で有意差はなかった。足関節の力学的特性では，最大背屈角度および最大背屈角度-4degree での足関節スティフネスは踏み込み足で有意に小さかった。一方，最大背屈角度，最大背屈角度-8degree および最大背屈角度-12degree での足関節スティフネスで脚間に有意差はなかった。下肢筋力では，足関節底屈・背屈筋力に脚間で有意差はなかった。

【考察】

踏み込み足において，最大背屈角度，最大背屈角度-4degree での足関節スティフネスが有意に小さかったのは，ジャンプ時に踏み込み足は蹴り足よりも接地時間が長く，持続的な背屈位の保持によって伸張されるためだと考えられる。

【結論】

女子バレーボール選手において，アキレス腱の形態，足関節の力学的特性に左右脚で差があった。

【本研究のセールスポイント】

バレーボールではスパイクのような左右非対称の動作を長期にわたり繰り返し行うため，左右に偏りが生じ，これが一因となってジャンパー膝やアキレス腱炎等のスポーツ障害を発症する可能性が考えられる。従って，長期間行ってきた競技特性によって生じるアキレス腱の形態や足関節の力学的特性および下肢筋力の左右差を検討することは有意義である。

< 一般研究発表 演題番号 No. 3 >

大学バレーボール選手における在学中の体力推移：J-Fit⁺ Study

○河村剛光（順天堂大学 スポーツ健康科学部）
中田学（順天堂大学 スポーツ健康科学部）

【キーワード】 体力，大学生，追跡

【目的】

スポーツにおいて体力は競技力の向上に大きな影響を及ぼす。バレーボールも例外ではなく、指導現場で活用できる代表的な科学的アプローチは体力測定である。しかし、競技レベルの高いバレーボール選手の体力データが十分に明らかになっていないとは言えず、トレーニング及び練習による経年変化について報告された研究はあまり認められない。本研究では、大学1部リーグに所属するバレーボール部に所属する大学生の体力とその4年間の変化を明らかにすることを目的とする。さらに、年代ごとの体力の相違や大学女子選手の体力も報告することとする。

【方法】

本研究では、約50年間継続実施し、データ蓄積がなされている順天堂大学スポーツ健康科学部体格体力累加測定のデータを活用する。対象データは、順天堂大学体育学部およびスポーツ健康科学部のバレーボール部に所属した学生のデータ2048件（最大値および延べで算出）である。うち男子学生1567件で、1973年から2011年のデータであった。女子学生は、481件で1991年から2011年のデータであった。主に分析した測定項目は、身長、体重、皮下脂肪厚を中心とした形態項目、握力、垂直とび、反復横とびを中心とした機能項目であった。

【結果】

分析した結果、男子選手の大学1年次（最大N:403）の身長、体重、握力、垂直とびは、 178.5 ± 7.4 cm, 69.6 ± 7.3 kg, 48.1 ± 6.6 kg, 69.8 ± 7.4 cmで、4年次（最大N:328）は、 178.5 ± 7.2 cm, 71.2 ± 7.6 kg, 49.6 ± 6.6 kg, 71.3 ± 8.2 cmであった。女子選手は、1年次（最大N:136）は 162.8 ± 5.2 cm, 58.2 ± 5.3 kg, 31.2 ± 4.0 kg, 52.5 ± 6.1 cm, 3年次（最大N:128）は、 163.4 ± 5.3 cm, 58.3 ± 5.5 kg, 30.7 ± 4.1 kg, 51.4 ± 5.9 cmであった。男子選手は4年生に向けて握力、垂直とびが向上する傾向にあった。女子選手においては、4年生次のデータがやや少なく、3年生次のデータと比較したが、1年次と比べて大きな差は認められなかった。

【考察】

男子選手のデータは、常に1部リーグに所属するような高いレベルのチームに所属する選手の体力を示した貴重なデータであり、国内におけるレベルの高いバレーボール選手の体力基準値となり得る。ジュニア選手にとっては、これらのデータが目標値となり、また、トレーニング時の参考値でもあり、さらにはタレント発掘の基準ともなると考えられる。当該プロジェクトにおいても、今後もより詳細にバレーボール選手の体力について分析する必要があり、加えて他種目との比較など様々な検証を行っていく。

【本研究のセールスポイント】

高いレベルのバレーボール選手のデータを示し、その解析対象数が多いことは、本研究の特徴である。さらに、遡って収集できない過去のデータを40年にわたり分析している点においても貴重な研究成果と考えられる。

＜一般研究発表 演題番号No. 4＞

ジャンプフローターサーブに対するレセプションの人数に関する比較
～男子ブラジル・ポーランドナショナルチームにおける2014年と2018年の比較～

○手川勝太郎（神戸市立大原中学校）

【キーワード】 レセプション，人数，オーバーハンドパス，アンダーハンドパス

【目的】

バレーボールにおけるレセプションについては，サーバーの視点から，女子のトップカテゴリーにおいて北口ら(2018)により「サーブの軌道及び着弾点をチーム戦術として統一している可能性」を示した先行研究が報告されている。しかし，レセプションの位置や人数については報告がない。そこで本研究では，2014年と2018年の世界選手権男子大会の決勝カードである男子ブラジルチームと男子ポーランドチームに着目し，ジャンプフローターサーブに対するレセプションの位置，人数を分析した。

【方法】

分析対象は，2014年と2018年の世界選手権男子大会の，ブラジル対ポーランド戦の両チームである。2試合でのジャンプフローターサーブに対するレセプションの位置，人数を記録した。レセプションの位置は，コートをSlot(1m)と距離(1.5m)の9×6で分割したゾーンで記録した。測定したデータをまとめ，ヒートマップ等を作成した。

【結果と考察】

分析の結果，ジャンプフローターサーブに対するレセプションにおいて，男子ブラジルチームでは，2014年は2人でのレセプションを多用していたのに対し，2018年は3人でのレセプションを多用していたことがわかった。こうしたレセプション戦術の変化がなぜ起こったのか，本稿では誌面の都合で掲載できないが，当日の発表においては，詳細を解説する。

【本研究のセールスポイント】

本研究の分析対象は2018年の試合で，現時点では最新の動向を反映した結果といえる。スカウティングには，エクセルをベースに作成したツールを用いた。専門的なスカウティングツールを必要としないことも本研究のメリットである。

< 一般研究発表 演題番号 No. 5 >

得失点とサーブ権による勝利期待値の推定

○佐藤文彦(株式会社 DELTA)

【キーワード】 勝利期待値, サーブ権, 得点と失点, Vリーグ

【緒言】

廣津・濱野(2009)は, テニス, 卓球, バドミントン, バレーボールについて確率論的に得点と失点, サーブ権からセットの勝利確率を求める方法を報告している. この方法は, サーブ権の有無という2つの状況で, それぞれのチームが得点する確率を設定することで計算が可能となる. 表計算ソフトがあれば求めることができる簡便性が利点だが, 実態を反映しているわけではない.

そこで本研究では, Vプレミアリーグの得点と失点, サーブ権のデータを用い, セットの勝利確率を求めることを目的とした.

【方法】

Vプレミアリーグ男子と女子, 2016/17と2017/18の2シーズン分のデータを, Vスコア(ライブスコア)より収集した. データは1点ごとに各チームの得点と失点, サーブ権の有無(なし=0, あり=1), セットの勝敗(敗=0, 勝=1)を記録した. さらに, 1から4セットまでの記録と5セットの記録は分けて処理した. 最終的なサンプルは, 1から4セットでは男子が64210, 女子は59754, 5セットでは男子が2380, 女子は2296となった.

これらのデータを, サーブ権の有無で分類し, それぞれでセットの勝敗を目的変数, 得点と失点を説明変数としたロジスティック回帰分析を行った. 分析には Microsoft R Open 3.4.3 を使用した.

【結果と考察】

分析の結果, サーブ権の有無のそれぞれの状況における, 得点と失点によるセットの勝利確率を予測する式を得た. この勝利確率はセットの勝利期待値とも呼べるべきものである. 例えば, 男子の1から4セットにおいて, 得点が10で失点が8の場合, サーブ権ありの状況での勝利期待値は72.5%で, サーブ権なしの状況では78.2%となる.

また, この勝利期待値をベースに用いることで様々な応用が可能となる. 大会当日には, 詳細な分析結果に加えこうした応用の可能性についても示したい.

【本研究のセールスポイント】

バレーボールの経験が多少あれば, 得点と失点からどれくらい勝てそうか大体は見当がつく. 本研究では, そうした経験則を明確な予測式として推定したものである. 結果は経験則から大きく離れたものではないが, 数値化することで様々な応用が可能となる. 本研究は将来的な応用の基礎となるものである.

< 一般研究発表 演題番号 No. 6 >

大学男子バレーボールチームにおけるレギュラーと非レギュラーの
体力測定データの比較

○佐藤裕務（特定非営利活動法人 NSCA ジャパン），
伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），
松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

【キーワード】 ストレングストレーニング，体力測定，メディシンボールスロー

【目的】

大学男子バレーボール選手を対象に体力測定を行い，その測定結果をレギュラー群（RG）と非レギュラー群（NRG）に分けて比較し，各群における体力要素の違いを明らかにする。

【方法】

関東大学バレーボール連盟一部リーグ所属のA大学男子バレーボール部に所属する選手を対象に2016年から2018年まで年間2回（オフシーズン=OSならびにインシーズン=IS），合計6回の体力測定を行った。測定項目は，10mスプリント，3コーンドリル（3C），メディシンボールフロントスロー，メディシンボールバックスロー（MBB），300mシャトルラン（300m），パワークリーン1RM，ベンチプレス1RM，バックスクワット1RMを実施した。測定結果をRG群，NRG群に分け，同時期の測定結果において独立したサンプルのt検定を用いて比較した。また，同様に初回の測定となる2016年OSのRG群と最新の測定である2018年ISのNRG群との測定数値を比較した。

【結果および考察】

6回全ての測定で，RG群のMBBがNRG群に対し有意に高値を示した。また3Cにおいても6回中5回の測定でRG群が有意に高値を示した。2016年OSのRG群と2018年ISのNRG群との比較では，300mのみ2016年OSのRG群が有意に高値だったが，MBBを含むその他の項目では差は見られなかった。MBBは爆発的で素早い下肢の伸展動作を用いてMBを身体後方に素早く投げる種目であり，バレーボールにおけるジャンプ動作に求められる筋活動にきわめて類似している。この素早い下肢伸展動作による効果的なジャンプ動作の成否はバレーボールのパフォーマンスに影響を与えることが考えられ，MBBにおける値がRG群の特徴として有意な差を示したと考えられる。このことにより，MBBはバレーボールのパフォーマンスに関わる因子であることが示唆された。またMBBにおいて2016年OSのRG群と2018年ISのNRG群の間に差がなかったことについては，2016年よりA大学では専門スタッフのもと，体系的なストレングストレーニングを行っており，それが結果に影響を与えた可能性があると考えられ，専門スタッフによる体系的なトレーニング習慣形成の重要性も予見できる結果となった。

【結論】

素早い下肢伸展動作を伴うMBBは，バレーボールにおけるパフォーマンスに関わる体力要素を反映するものであることがわかった。

【本研究のセールスポイント】

実際にチームで行っているストレングストレーニング，体力測定の取り組みについて報告したものである。実際のチームでの該当内容を報告した発表は国内には少ない。またパフォーマンスの高いレギュラー群において有意にメディシンボールバックスローが高かったということは，この種目がバレーボールのパフォーマンスに関わる体力要素を反映することが示唆され，競技特異的な能力を測る測定項目となる点が明らかになった点で貴重な知見になると考えられる。

< 一般研究発表 演題番号 No. 7 >

バレーボールの様々なディグ場面におけるシチュエーション

○村田勇人（法政大学 大学院スポーツ健康学研究科），吉田康伸（法政大学 経営学部）
山田快（法政大学 経済学部）

【キーワード】 トランジション・アタック，ディグ，守備位置

【目的】

本研究ではトランジション・アタックを構成する要素のうちディグに着目し，自チームのブロック枚数を踏まえて守備位置の違いによるアタックコースを分析し，ディグの成功率向上に向けた知見の提供を目的とした。

【方法】

平成30年度関東大学バレーボール2部リーグ戦において，調査協力を得られた対象チームにおける全11試合，計41セットを分析対象とした。分析項目は①相手チームのアタックの分類（アタック種類），②対象チームが行ったブロック枚数の記録（0～3枚で評価）とブロックタッチの有無評価（ブロック枚数と評価），③ディグが行われた場所とボールの落下地点の3つであり，これらをDATA VOLLEY2007で使用されているコートの分割法に基づいて分析した。またディグが行われた際の評価も合わせて行った。

【結果】

相手チームから打たれたアタックの総本数は953本であり，そのうちブロックに触れることなく，ネットを通過したアタックは430本（45.1%）であった。特に「レフト攻撃」の割合が高く，レフトから「味方ブロック2枚」で打つパターンが107本（24.9%）であった。当該パターンにおいて，ブロックを通過した割合の高いコースは8Cのコースにおける14本であった（13.1%）。またディグのミスは9Dで最も高く6/9本（66.7%）であった。

【考察】

本研究の結果，「レフト攻撃」，「味方ブロック2枚のシチュエーション」において，ブロックタッチすることなく「アタックコース8C」にアタックが来る可能性が高いことが明らかになった。またディグのミスの割合は9Dにアタックが来た場合で最も高く，9Dでのディグの成功率を上げることでトランジション・アタックの成功率向上に有益である可能性が示唆された。

【結論】

ディグミスの多かった9Dのコースを意識的にトレーニングすることがゲーム中にディグ成功率を上げる重要なポイントであり，トランジション・アタックの成功率を高める指標となり得る。

【本研究のセールスポイント】

本研究からバレーボールの技術を向上させ，特に，トランジション・アタックの成功率を向上させるための一助となる資料が獲得された。

＜一般研究発表 演題番号No. 8＞

バレーボールにおけるキャッチの判断要素に関する研究
～ボールと手の接触時間からの検討～

○縄田亮太（愛知教育大学），槇田諭（佐世保工業高等専門学校）

【キーワード】 キャッチ，接触時間，判断要素

【背景・目的】

バレーボールにおいて、手や指を使ってボールをボレー（弾く）をするオーバーハンドパスは、非常に特徴的な動作である。一般的なスポーツでは「つかむ・投げる」など、ボールを操作するために手や指が用いられる。しかし、オーバーハンドパスの際には、ボールを「つかむ・投げる」は反則（「キャッチ」）となる。この「キャッチ」という反則は、不可欠なルールである。なぜなら、ボールを「つかむ・投げる」ことが許容されたら、競技そのものが成立しないからである。このように本質的な部分を保障するために「キャッチ」は存在しているが、判定のための明確な基準は存在しない。あくまでも審判員の主観的な基準である。ただし、主観的ではあるが、選手・コーチが納得できるものが大半である。そこには、審判員の主観的な基準を構成している「判断要素」があると考えられる。もし「判断要素」を少しでも客観的に検証できれば、審判員の養成や、選手や指導者にとっても具体的な指標ができ、指導の一助にもなると考えられる。

「キャッチ」の「判断要素」は1つではなく、複数の要因が影響していると考えられる。その中でも「ボールと手の接触時間」に着目する。なお、本研究は「キャッチ」を「ボールと手の接触時間」だけで判断しようとするものではない。あくまでも「ボールと手の接触時間」の指標だけで「キャッチ」を見たときに、判定の境界がどのあたりかを把握し、それを基に発展的に他の「判断要素」（動作など）を検証していく基礎研究の位置づけである。本研究では「ボールと手の接触時間」から「キャッチ」の「判断要素」を検証することを目的とした。

【方法】

被験者には、連続的に映し出されるオーバーハンドパスの映像を見て、そのプレーを瞬時に判定してもらう。選択肢は、①キャッチ、②キャッチではないの2つとする。映像は事前に撮影しておいたもので「ボールと手の接触時間」が異なるオーバーハンドパスがランダムで連続的に映し出されるように編集しておく。それらを基に、キャッチと判定される時間帯を検証していく。なお、結果と考察は当日に提示する。

【本研究のセールスポイント】

1. 「キャッチ」の判定における主観的な「判断要素」を客観的に検証しようとするところ
2. 審判員・選手・指導者など「全てのバレーボール関係者」に還元できること

＜一般研究発表 演題番号 No. 9＞

バレーボールクラブの運営に関する一考察
～ MOUVEMENT VOLLEY-BALL LYSSOIS の取り組みに着目して～

○佐藤国正（桐蔭横浜大学），佐藤浩明（郡山女子大学）

【キーワード】 アスリート育成パスウェイ，統合的なボール運動，クラブ運営

【研究の目的】

本研究はフランス北部にある MVBL のクラブ運営に着目して，我が国のバレーボールクラブの運営の方策に新たな視座を齎すことを目的としている。クラブは，独自のアスリート育成パスウェイを構築しながら，クラブ運営の充実およびクラブの普及・振興・強化を図っている。なお，当団体が取り組む EDM を用いている点は我が国のバレーボールクラブの運営における参考資料として提供したい。

【研究の内容と方法】

MVBL が取り組む EDM やその他の活動について現地調査を行ない，運営者や会員へのインタビュー調査をもとに課題と成果を考察する。インタビュー調査から得られた回答，ホームページ上に掲載されている情報および団体が発行している刊行物の整合性を図りながら，資料を整理する。

【結果】

1992 年に EDM が設立され，その普及と発展を 1995 年に設立された MVBL が担うこととなった。今日において MVBL の象徴的な活動内容の 1 つとして EDM が位置づけられており，EDM を契機と MVBL のバレーボール活動に取り組む会員もいる。MVBL の活動内容は，以下の 4 領域から構成されている。① VOLLEYBALL，② SPORT POUR ENFANT，③ SPORT POUR SENIORS，④ VOLLY SANTE/LOISIRS

【考察】

MVBL は EDM の実施にあたり地域の幼稚園や小学校，老人福祉施設へ出張し，園児や児童を対象としてスポーツ活動を教える。EDM の活動に興味を示した参加者は，MVBL が独自に実施している活動へ加入する。特に幼少期におけるスポーツ機会の提供は MVBL のクラブへの導入になる点とバレーボールに特化した能力のある子どもの発掘，さらにはその子どもを自チームに加入させる契機と繋がることが明らかとなった。

【まとめと今後の課題】

バレーボールクラブが EDM のような統合的なボール運動を実施することはクラブへの加入者を増加させ，財政面を支える貴重な収入源となる。アスリートパスウェイの 1 つの手段となることが理解される。バレーボール活動にのみこだわる必要性がないともいえる。

【本研究のセールスポイント】

我が国のバレーボールクラブ運営の在り方の再考に向けて，フランス北部にある MVBL のクラブの運営の手法に関する情報を提供する。

＜一般研究発表 演題番号No. 10＞

タイムアウトは相手チームのブレイクを阻止する有効な手段か

○高根信吾（常葉大学），村本名史（常葉大学），安田貢（山梨学院大学），
塚本博之（静岡産業大学），瀧澤弘光（常葉大学），河合学（静岡大学）

【キーワード】 タイムアウト，ブレイク阻止，タイミング

【目的】

タイムアウトは主に「3点連続失点したら」など悪い流れを断ち切るために要求されるが，それらの言説通り，現実のゲームにおいて有効に機能しているかを検証する。

【方法】

公式戦の記録用紙から，タイムアウトの要求回数，要求時のスコア（タイミング），シチュエーション（連続失点状況など），さらに，タイムアウト直後のポイントを集計する。タイムアウト直後のポイントについては，ゲーム中のすべてのポイントにおける得点確率と比較することで，タイムアウトの有効性について検証する。

予備調査として平成21,22年に実施された静岡県高校の公式戦3大会（県大会）の175試合を対象とした。本調査では平成29,30年に実施された静岡県高校の公式戦2大会（春高バレー予選大会）を加えて提示する予定である。

【結果】

- ① **要求回数**：1.18回（＝919回／388セット／2チーム）
- ② **要求タイミング**：序盤146回（16%），中盤360回（39%），終盤413回（45%）
要求時にリードしているチームのスコアによって，序盤0～8点，中盤9～16点，終盤17点以降とし，集計した。
- ③ **シチュエーション**：勝ち状況126回（14%），同点29回（3%），負け状況764回（83%）要求時にリードしていたか，同点か，リードされていたかを集計した。また，サーブ権を持っていない状況での要求は907回（99%）で，最も多いシチュエーションは2連続失点後の要求329回（36%），次は3連続失点後の要求270回（29%）であった。サーブ権を持っている状況での要求は12回（1%）で，すべて1得点後の要求であった。
- ④ **有効性**：成功458回（50%），失敗461回（50%）
要求したチームが，タイムアウト直後に得点した場合は「成功」，逆に失点した場合は「失敗」とし，集計した。また，「タイムアウトは相手チームのブレイクを阻止する有効な手段か」を検証するために，サーブ権を持っていない状況での要求に限定して成功と失敗を集計した。例えば，男子の場合，サーブ権を持っていないチームが次のポイントを取る確率は57%であったが，タイムアウト後の次のポイントを取る確率は52%であり，（統計的には未処理であるが）有効とはいえない結果となった。

【参考文献】

拙著「バレーボールのラリーポイントシステムにおける得点に関する研究-高校チームの静岡県大会を対象にして-」バレーボール研究15，8-15頁

【本研究のセールスポイント】

タイムアウトの有効性に着目した研究です。
本研究の成果を多くの現場にフィードバックできるように，高校の公式戦を研究対象としました。

<一般研究発表 演題番号No. 11>

大学バレーボールにおけるブロック参加人数の違いによる アタック貢献度の分析

○伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），
佐藤裕務（特定非営利活動法人 NSCA ジャパン）

市川智之（長岡工業高等専門学校），松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

【キーワード】 ブロック参加人数，アタック貢献度，決定率，効果率

【目的】

バレーボールにおいて最も得点率が高い攻撃はアタックであり（松井 2015），秋山（2009）は「コンビネーション攻撃を合目的的に用いて相手ブロッカーの少ない状況を作る」という観点からゲームパフォーマンスを向上させると明らかにしている。本研究では相手ブロッカーが少ない状況が攻撃に有利であることを明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

関東大学バレーボール1部リーグ所属の1チームにおいて2018年度秋季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦全11試合43セット中に行ったアタック攻撃を対象（ダイレクト・アタックとツー・アタックは対象外）とした。観客席上後方より撮影と同時に「Data volley(Data project社製）」に客観的記号の入力を行ったデータからアタック攻撃を抽出し，アタッカーがボールをヒットした瞬間の相手ブロッカーの参加人数をカウントした。アタック決定率，アタック効果率，被ブロック率，ミス率，継続（リバウンド）率の分析を行った。

【結果と考察】

相手ブロック参加人数が増えるとアタック決定率およびアタック効果率が低下し，被ブロック率および継続（リバウンド）率は向上する有意な相関関係が認められた。ミス率については有意な相関関係が認められなかった。これは個人のスキルとトスの質による影響があると推測された。アタック決定率，アタック効果率，被ブロック率，継続（リバウンド）率の各項目において，ブロック参加人数2人の場合がブロック参加人数0人の場合と比較して最も大きな差が見られた。以上のことからブロック参加人数を1.5人以下にすることがアタック攻撃を行うにあたり有利な状況であると言える。

【今後の課題】

相手ブロッカーの参加人数を減らし，アタック攻撃に有利な状況を構築するために必要な要素の抽出を目的とした研究を行う。

【本研究のセールスポイント】

相手ブロッカーの少ない状況を作りアタック攻撃に有利な状況を作ることがゲームを優位に進める要素であることを科学客観的に証明した。また，アタック攻撃に有利な状況とは相手ブロック参加人数が何人以下であることを具体的に証明した。

＜一般研究発表 演題番号No. 12＞

タイムアウト取得に関する指導者の意識調査～静岡県と山梨県において～

○村本名史（常葉大学），高根信吾（常葉大学），安田貢（山梨学院大学），
塚本博之（静岡産業大学），瀧澤寛路（常葉大学），河合学（静岡大学）

【キーワード】 タイムアウト，指導者，意識調査

【目的】

バレーボールの試合における監督業務の一つであるタイムアウト取得について，バレーボールの多くの指導者に共通する状況や場面について検討することを目的とした。

【方法】

静岡県で2018年に実施されたバレーボール指導者の養成会または研修会において，受講者（91名）を対象として自由記述式記録用紙を用いて，タイムアウト取得に関する意識調査を実施した。また，山梨県のバレーボール指導者を対象としても同様の用紙を用いて郵送回収式調査を実施し，83名の指導者からの回答を分析した。タイムアウト取得に関して，各指導者で多く共通する状況や場면을抽出するため，回答内容から選出したキーワードの回答人数を集計した。さらに，指導者のカテゴリー（小，中，高，大，クラブ，ママさんなど），バレーボール種別（6人制，9人制），指導者または選手の性別，指導期間を算出した。

【結果】

代表的なキーワードには，自チームや自チームの選手に関するものではミス（82名），失点（55名），ケガ（怪我）（46名），連続失点（45名），流れ（35名），雰囲気（24名），サービスエース（22名），リズム（17名），集中（11名）があり，自チームの劣勢場면을想定した語句が挙げられた。また，相手チームからのサーブ（44名）や相手チームのサーバー（14名），ブロック（10名）といった技術，戦術（16名），指示（10名）といったベンチから選手への連絡に関するものや，水（12名）または疲労（疲れ）（7名）といった選手のコンディションに関する回答もあった。

【考察】

自チームの劣勢場面では，多くの場合，相手チームのブレイクを阻止するためにレセプションからどのように攻撃するかを考える必要がある。よってタイムアウトは，自チームの劣勢場面において相手チームによるブレイクの阻止を狙う状況やベンチから選手への連絡，選手のコンディション改善のために取得するケースが多いと考えられた。

【結論】

バレーボールの多くの指導者は，自チームの劣勢場面における相手チームのブレイク阻止，ベンチから選手への連絡，選手のコンディション改善などを目的として，タイムアウトを取得していることが推察された。

【本研究のセールスポイント】

タイムアウト取得に関して多くの指導者に共通する状況や場면을明らかにする。

<一般研究発表 演題番号No. 13>

バレーボール競技のブロックスキル指導時における指導者の視線行動

○中田学（順天堂大学 スポーツ健康科学部），
河村剛光（順天堂大学 スポーツ健康科学部）

【キーワード】 バレーボール，視線，指導者，アイマークレコーダー

【緒言】

バレーボール競技は大きく分けて、パス、サーブ、レセプション、スパイク、ブロック、ディグといったスキルから構成されている。スポーツ現場での選手のスキル向上には監督やコーチの指導が非常に重要である。バレーボール競技におけるこれまでの研究では技術・戦術指導を行う際に指導者の視線が実際にどのように移動しているのか明らかになっていない。また本研究ではブロックスキルに着目し、監督として全国大会に出場した経験のある指導者（上級群）と、全国大会へ出場したことがない指導者（初級群）の、ブロック指導時における視線行動を比較・検討することを目的とする。

【対象と方法】

被験者は高校の部活動で指導を行っているバレーボール指導者で、上級群3名（平均年齢52.0歳±7.8歳，平均指導歴30.0±7.0年），初級群3名（平均年齢32.0歳±2.9歳，平均指導歴9.7±2.1年）の計6名であった。バレーボールゲームの映像から、相手チームの攻撃に対して自チームがブロックに参加する場面を抽出し、2本の動画を作成した。この動画をアイマークレコーダーアクタスの刺激呈示用ディスプレイに流し、被験者の視線行動を採取した。分析範囲として、相手チームのレセプションからトスインパクトまでの間を分析範囲1とし、トスインパクトから自チームのブロkkerが着地するまでの間を分析範囲2とした。分析エリアをブロkker上半身、ブロkker下半身とした。

【結果】

動画1の総注視時間割合を分析した結果、上級群の分析範囲1では、ブロkker上半身3.58±4.93%，ブロkker下半身0.29±0.83%，分析範囲2では、ブロkker上半身5.24±4.51%，ブロkker下半身0.59±0.86%，初級群の分析範囲1では、ブロkker上半身2.68±2.42%，ブロkker下半身0.05±0.09%，分析範囲2では、ブロkker上半身4.26±2.32%，ブロkker下半身0.02±0.05%であった。動画2の分析結果は、上級群の分析範囲1では、ブロkker上半身6.05±3.80%，ブロkker下半身0.87±1.04%，分析範囲2では、ブロkker上半身5.84±4.86%，ブロkker下半身2.07±1.66%，初級群の分析範囲1では、ブロkker上半身2.69±4.23%，ブロkker下半身0.04±0.11%，分析範囲2では、ブロkker上半身8.38±5.18%，ブロkker下半身0.06±0.13%であった。上級群は下半身への視線鼓動が多く見られた。

【本研究のセールスポイント】

スポーツ現場での選手のスキル向上には、監督やコーチの指導が非常に重要である。キャリアのある指導者と、キャリアの浅い指導者の視線行動において、どのような違いが出るのかを明らかにすることは意義がある。さらに、指導する際の着目点を明らかにすることは、それに関連する今後の研究のためだけでなく、バレーボールの指導やコーチングにおいて重要な資料になることが期待される。

＜一般研究発表 演題番号No. 14＞

全日本高校選抜合宿参加バレーボール選手の心理的特性に関する研究 ～性差とTSMI, SCAT, MPIに着目して～

○飯塚駿(山梨学院大学), 遠藤俊郎(山梨学院大学),
三井勇(山梨学院大学), 安田貢(山梨学院大学)

【キーワード】 TSMI, SCAT, MPI, 心理的特性, 性差

【目的】

本研究は2017年度の全日本高校生選抜合宿参加バレーボール選手のデータを用い、競技経験年数・現在のポジション継続年数の違いによるTSMI, MPI, SCATの得点を比較・検討することにより、プレイヤーのメンタル面を思慮に入れたコーチングに(本研究ではバレーボール)関する一資料に役立てることを目的とした。

【方法】

調査用紙はTSMI(日本体育協会競技意欲検査), SCAT(競技不安), MPI(モーズレイ性格検査)の尺度に加え、年齢, 競技歴, 身長, 体重, 垂直跳び, 最高到達点を問うフェイスシートを「バレーボール選手の競技に対する意識調査」として実施した。

【結果】

対象者47名のうち、記入漏れや回答の正確さを示す項目クリアした、39名(男子23名, 女子16名)を抽出し、分析を行った。その結果、TSMI(競技意欲検査)において、女子のほうが「努力への因果帰属」, 「勝利志向性」において有意にポジティブな結果を示した。SCAT(競技不安), MPI(モーズレイ性格検査)においては、性差において有意な差は見られなかった。しかし、SCAT(競技不安)は評価基準から「中程度」である者が多かった。また、MPI(モーズレイ性格検査)においても、「普通」または、「やや外向的」と判断された者が多かった。差によって選手の心理的特徴の違いが明らかとなった。

【考察】

TSMIの結果から、有意差はなかったものの、男子に比べ、女子の方が「失敗不安」の項目で高い点数だったことから、失敗に対する不安から、「努力への因果帰属」において、女子の方が有意に高い点数となったと推察される。また、「勝利志向性」の項目から、男子より女子の方が、勝敗にこだわる事も垣間見えた。SCATやMPIにおいて、有意な差は見られなかったことから、将来を有望視される高校生でも、競技不安や性格には特別な傾向がないことが明らかとなった。

【まとめ】

本研究の結果から、メンタル面を思慮に入れたコーチングとして、選手自身のメンタルマネジメントや指導者の指導方法などは画一的なものにとらわれず、選手個々にあった方法を用いる必要性が示唆された。また、今後、縦断的研究を実施することで今後のバレーボールのコーチングに資する資料が提示できると思われる。

【本研究のセールスポイント】

本研究の対象者は将来を有望視される逸材者であるため、そのような高校生の心理的特性を明らかにしている貴重なデータあり、今後のコーチングの一資料に役立てる可能性がある。

＜一般研究発表 演題番号No. 15＞

ラインジャッジにおける人間の認知限界の検討
Discussion of the human's recognition limit in the line judge

○三村泰成（鶴岡工業高等専門学校）

【キーワード】 ラインジャッジ, 視覚, 認知限界, 判定基準, ルール

バレーボールにおけるラインのインアウトの判断基準は、「接地したボールがラインに触れたか否か」である。このルールでスパイクがラインギリギリに着床し、変形したボールがラインに触れているかどうかを肉眼で判断するのは、経験豊富な審判員でも困難な作業である。スパイクは、球速が100km/h以上であることも珍しくなく、接地時間は0.01秒程度と極めて短時間であることから、人間が判断するのが不可能であると思われる状況も少なくない。それゆえ、トップカテゴリの世界大会では、ホークアイ社が開発した「チャレンジシステム」というテクノロジーを導入して、インアウトの判定を行っている。チャレンジシステムは、複数のハイスピードカメラからボールの位置を測定する技術であり、もちろん誤差はあるが肉眼よりも正確な判定が実現できていると考えられる。しかしながら、しばしば、肉眼ではアウトにしか見えないものがインと判定されるケースも少なくない。全てのカテゴリでチャレンジシステムを導入できれば問題はないが、トップカテゴリ以外では、審判が肉眼で判断するしかないのが現状であり、このことが、審判員の間で混乱を生じさせていると著者は考えている。

そこで、本研究では、まず、ボールの挙動と、チャレンジシステムが見せているものを明らかにし、着床の瞬間を肉眼で捕らえるのは極めて困難であることを示す。次にボールがバウンドした特殊な動画を作成し、被験者がバウンドした瞬間をどこまで見極められたかを検討する。さらに、床反力計にバウンドさせたボールと人間の動作の同期を試みて、「接地時のどのタイミングを認知してるのか」を検証する。最後に、上述を考慮した、新たな判定基準を提案する。

【本研究のセールスポイント】

視覚情報から人間が何を認知しているのかを本当の意味で知ることはできないが、本研究では、動画と床反力計を用いて、認知限界を見積もる方法を検討した。少なくとも、ボールのインアウトの判定基準に問題があることを明確にできたと考える。

＜一般研究発表 演題番号No. 16＞

男子バレーボールにおける攻撃に対するブロックの様態

○松井泰二（早稲田大学 スポーツ科学学術院），

伊東克明（早稲田大学 スポーツ科学研究科），

佐藤裕務（特定非営利活動法人 NSCA ジャパン），

甲斐麻見子（早稲田大学 スポーツ科学研究科），市川智之（長岡工業高等専門学校），

多治見麻子（トヨタ車体クインシーズ），吉田清司（専修大学）

【キーワード】 攻撃種，ブロック構成要素，ブロック評価

本研究は2012 ロンドンオリンピックバレーボール世界最終予選男子大会における，攻撃に対するブロックの様態を分析した。研究対象は日本，イラン，セルビア，ベネズエラ，中国，オーストラリア，韓国，プエルトリコとした。攻撃種については，Aクイック，Bクイック，Cクイックなどの1テンポ，セミ，平行などの2テンポ，ハイボールの3テンポとして攻撃種別に分析をした。さらに，攻撃に対するブロックの評価をおこない，ブロックの様態を分析した。

【本研究のセールスポイント】

男子トップレベルにおいて，攻撃種を明らかにしたうえで，それに対するブロック評価を詳細に分析した研究はこれまでなかった。



オンコートレクチャー

崇城大学 総合教育センター
准教授

増村雅尚 (ますむら まさなお)

<職歴・社会における活動>

- 1999年4月 富士写真フイルム株式会社生産技術部
- 2002年8月 株式会社ブレイザーズスポーツクラブ強化部
- 2007年4月 流通経済大学非常勤講師
- 2009年4月 株式会社ブレイザーズスポーツクラブ コーチ
- 2012年4月 学校法人君が淵学園 崇城大学 (現在に至る)
- 2000年～2009年 Vリーグ所属
(富士フイルムプラネッツ、堺ブレイザーズ、つくばユナイテッド SunGAIA)
- 2000年 全日本シニア男子 (2004年まで)
- 2006年 JVA 科学研究委員会 動作分析班 (2016年まで)
- 2009年 堺ブレイザーズ コーチ (2012年まで)
- 2016年 全日本シニア男子バレーボールチーム コーチ
- 2016年 東レアローズ技術アドバイザー (現在に至る)
- 2017年 JVA ハイパフォーマンスサポート委員会 バイオメカニクスユニット (現在に至る)

自分の体を動かしているのは自分自身！～イメージ通りに動く体～

スポーツバイオメカニクスは、身体運動の仕組みをよりよく理解し、スポーツにおける身体の動きを力学的観点から研究する学問です。バイオメカニクスの計測手法を利用した客観的観察手段には手間暇がかかりますが、繰り返し詳細な観察や分析ができるという長所があります。私が指導の現場で活かせるものといえば、スポーツバイオメカニクスの思考をあげます。どのように動いているのか、どのように動けば効率よく動けるのか、打力を上げるには？ジャンプ力を上げるには？指導の現場で大切なものは「自分自身がどのように動いているのかわかること」だと思います。スポーツバイオメカニクスの分析や高価な機材、オノマトペまで様々な方法を活用し、指導者は対象者がどのように動いているのか伝えることができ、どのように動けばよいのかを伝えられることが重要であると考えます。今回のオンコートレクチャーを通して、タブレット端末などを活用し、即時的なフィードバックがどのように対象者に活用できるか、どのようなフィードバック方法があるかなどを皆さんと一緒に活動していく所存です。指導現場でPDCAが繰り返されていると思いますが、そこにスポーツバイオメカニクスの分析方法、思考を加え、皆様が経験してきた指導法がよりよく伝わるような活動になればと思います。言葉で伝える、身振り手振りで伝える、映像をみせる、一緒に動くなど、指導対象に応じた伝え方にて、「今の自分の動き」が正確に理解出来るような撮影の視点や着眼点などを伝えられればと思います。

<一般研究発表者へのお願い>

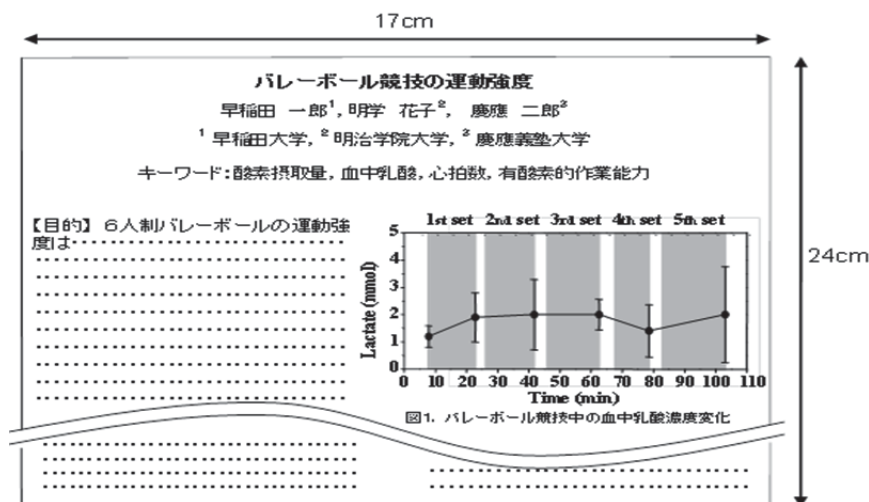
本大会における演者は、機関誌「バレーボール研究」へ掲載する原稿を提出して頂きます。
下記の抄録作成要領に従い抄録を作成し、『機関紙掲載用抄録_氏名』とファイル名を付け、メール添付にて、2019年3月31日（日）までに編集委員会（y-yokoya@ic.daito.ac.jp）へ送信してください。

◆送り先

日本バレーボール学会 編集委員会
〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿 560
大東文化大学 横矢研究室
E-mail : y-yokoya@ic.daito.ac.jp

◆機関誌掲載用抄録作成要領

- 1) A4用紙（白）1ページ（印字範囲：縦24cm×横17cm）を用い、必ずワードプロセッサ（10.5ポイント明朝体）で作成すること（下図参照）。
- 2) 形式：演題名，演者名，所属機関名，内容要旨を範囲に収まるようにまとめること（下図参照）。
- 3) 演題名は最上段の1行目または2行目を使用すること。副題がある場合は行を改めること。演題名は12ポイント太字とする。
- 4) 演者名，共同研究者名および所属機関名は4行と5行を使用すること。演者名の前に○印を付けること。所属機関名は演者ならびに共同研究者を列記した後，改行して記入し，所属機関名の左肩に記入順に番号を付けること。
- 5) 演者および共同研究者の所属機関は，演者および共同研究者の右肩に所属機関の番号で表示すること。
- 6) キーワードを6行目に2～5語記入すること。
- 7) 抄録内容は7行目から記入すること。目的，方法，結果，考察，結論の順でなるべく項目別にまとめること。ただし，フォーラム・セッションで発表した演題については，そのまとめ方は上記の形式にとらわれることなく自由とするが，発表内容，ディスカッション内容を含めてまとめる。
- 8) 図，表および写真を掲載する場合でも必ず本文枠内に収めること。
- 9) 図および表は原稿用紙に直接作成するか，白色または薄青色の方眼紙に黒インクで作成して原稿用紙に貼り付けること。写真はスキャナーで取り込み，原稿用紙にコピー&ペーストするか，写真そのものを原稿用紙に貼りつけること。なお，説明文の文字の大きさにも考慮すること。



機関紙掲載用抄録の作成例

<広告協賛企業・団体一覧>

- アシックスジャパン株式会社
- 特定非営利活動法人 NSCA ジャパン
- 合同会社オーカグローバルサポート
- 木下商事株式会社 シャトー酒折ワイナリー
- 株式会社近畿日本ツーリスト関東 甲府支店
- 河野スポーツ株式会社
- 有限会社甲府スポーツ
- 株式会社サス・スポーツプロダクト
- 株式会社サワショウ
- サントリー酒類株式会社 山梨支店
- 公立大学法人 都留文科大学
- 東京ガスライフバル千葉株式会社
- 東レアローズ男子バレーボール部
- 日本シグマックス株式会社
- 日本文化出版株式会社
- 有限会社ブックハウス・エイチディ
- 山梨学院大学バレーボール部
- 山梨信用金庫
- 株式会社山梨中央銀行
- リコージャパン株式会社

(五十音順)

asics

MOVEMENT™

ワタシを、動かせ。



ZAMST 

限界を可能性に変える。

あくなき挑戦に、さらなるパワーを。
闘いをあきらめない心とZAMSTは挑み続ける。

www.zamst.jp



月刊バレーボール

VOLLEYBALL

毎月
15日
発売!!



定価 751円(税込)

**ファンも、競技者も
バレーボールの気になる話題を
オールマイティにカバー!!**

下記オンラインショップ、全国書店にてお求め下さい!

お得な定期購読〈豊富なプランから選べます!〉

SPORTS MAGAZINE&GOODS

NBP 日本文化出版 オンラインショップ本店
OFFICIAL ONLINE SHOP
<http://shop.nbp.ne.jp/>



日本文化出版株式会社
TEL. 03-3365-7373

好評発売中 ● 基本的スキルからフォーメーションまで

スキルアップ! バレーボール

改訂版

A5判 オールカラー 195ページ
ISBN 978-4-909011-01-5

定価：1,500円+税

著者：増山光洋（中央学院大学准教授）

監修者：吉田清司（FC東京バレーボールチーム総監督）

バレーボールに関する基本的なスキル（パスやブロック、スパイク、サーブ）、フォーメーションを豊富な写真で解説。ストレッチングなどコンディショニングの方法やスポーツビジョン、ゲーム中に行うべきことなどのポイントも網羅しています。9人制バレーボールにも対応しています。バレーボール教室の運営を通して培われたノウハウがわかりやすくまとめられています。白井貴子さんとの対談も収録（ミュンヘンおよびモントリオールオリンピックにて、銀・金メダル）。

本書の特徴

- ・パスの構えから基本的な動きを解説
- ・6人制だけでなく、9人制についても
- ・豊富なコンディショニングの方法
- ・白井貴子さんとの対談も収録



主要目次

- 第1章 パス
 - 第2章 ディグ
 - 第3章 サーブ
 - 第4章 レセプション
 - 第5章 セット
 - 第6章 アタック
 - 第7章 ブロック
 - 第8章 フォーメーション
 - 第9章 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 第10章 トレーニング ケガをしない身体づくり
 - 第11章 ゲーム分析と正しい知識の習得
 - 第12章 コラム
- FC東京指導普及活動紹介



練習方法についてわかりやすく解説（ディグの例）



9人制のディフェンスフォーメーションも解説（フォーメーションの例）

（このほか、アスリートのケガを防ぎ、パフォーマンスを向上するヒントとなる書籍および雑誌（月刊トレーニング・ジャーナル、月刊スポーツメディスン）を発売しています。これからもブックハウス・エイチディをどうぞよろしくお願いいたします。）

▼お問い合わせ・ご注文

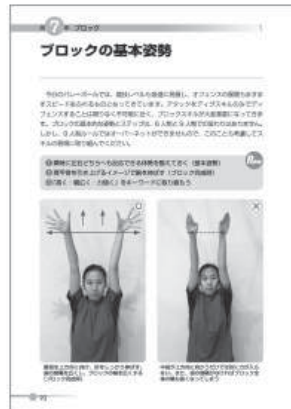
（有）ブックハウス・エイチディ

〒164-8604 東京都中野区弥生町1-30-17

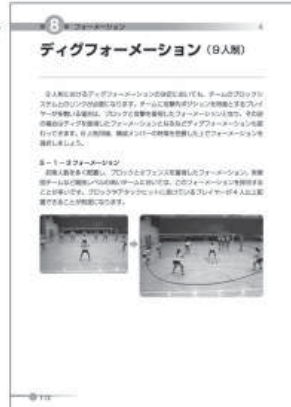
電話 03-3372-6251（日曜日定休）

FAX 03-3372-6250（24時間対応）

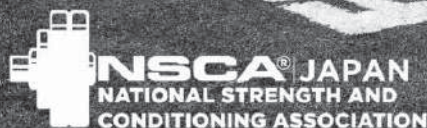
e-mail bhhd@mxd.mesh.ne.jp http://www.bookhousehd.com



バレーボールのさまざまな動作の基本姿勢を示す（ブロックの例）



世界で唯一の アスリート指導のための資格！



everyone stronger

世界 76 の国と地域に NSCA 資格認定者が！



Certified Strength and Conditioning Specialist

認定ストレングス & コンディショニングスペシャリスト



◆アスリート指導のための資格

CSCS は、科学的知識を応用し、アスリートが照準をあわせるパフォーマンスのピークに向かって指導できるよう、定められた NSCA 認定資格です。筋力トレーニングや他の体力要素の指導だけでなく、施設の運営・管理、栄養ドーピング、生活習慣に関する指導など、教育者的側面も併せ持ちます。

◆幅広い対象者への指導資格

NSCA-CPT は、個々のクライアントに合った評価、動機づけをおこない、適切な指導ができるよう定められた NSCA 認定資格です。アスリートの他、年齢・性別・経験を問わず幅広い層に対してトレーニング指導を行うため、トレーニングの知識に加え、医学的、運動生理学的な専門知識とトレーニング指導技術が必要となります。

NSCA Certified Personal Trainer

NSCA 認定パーソナルトレーナー



◇試験会場と試験日時は、自分で決められる

NSCA 資格認定試験は『コンピュータベース』という試験形式で実施しています。試験代行会社ピアソンVUE が管轄する、日本全国 100 か所以上のテストセンターから好きな会場を選び、自分の都合の良い日時で受験することができます！予約変更もできるので、とても便利です。

NSCA ジャパンのことがもっと知りたくなったら →→→ www.nsca-japan.or.jp



バレーボール関係者の皆様

スカラシップ特待生制度を利用して
無料でアメリカ大学へ進学できるのは知っていますか？

見え方が、90度、いや、270度変わるだけでなく

視野も360度広がります。

ここ数年、アメリカの大学に留学中の日本人バレー選手たちが

バレー強豪国のアメリカ界をざわつかせています。

彼女たちはただバレー留学しているのではなく、
文武両道をモットーにするアメリカ大学で

#セカンドキャリアも豊かに #バレーは人生の通過点 #アメリカトナリー



生きる力を身に着け、将来の可能性を切り拓いています。

アメリカの大学には世界中からバレー選手が集まっています。

日本人選手はまだほんの一握り。

東京オリンピックまであと1年。

「バレーボールを通して世界を身近に」

オーカグローバルサポートはあなたの挑戦を可能にします。

日本のバレーボーラーをたくましく、世界へ。



合同会社オーカグローバルサポート

電話: 07015770535 | メール: ogs@ohca.co.jp | Web: <http://www.ogs-volley.com/>

シャトー酒折ワイナリー

甲州ドライ

- ・2011ヴィンテージ
国産ワインコンクール（現日本ワインコンクール）
金賞、コストパフォーマンス受賞
- ・2013ヴィンテージ
国産ワインコンクール（現日本ワインコンクール）
部門最高賞、金賞、コストパフォーマンス賞の三冠受賞
- ・2015ヴィンテージ
G8伊勢志摩サミットにて提供
- ・2017ヴィンテージ
日本ワインコンクール
銀賞受賞
- ・ジャパンワインチャレンジ
金賞受賞



甲州ドライ 2018

税込価格 1,620 円
アルコール度数：12%
容量：720ml

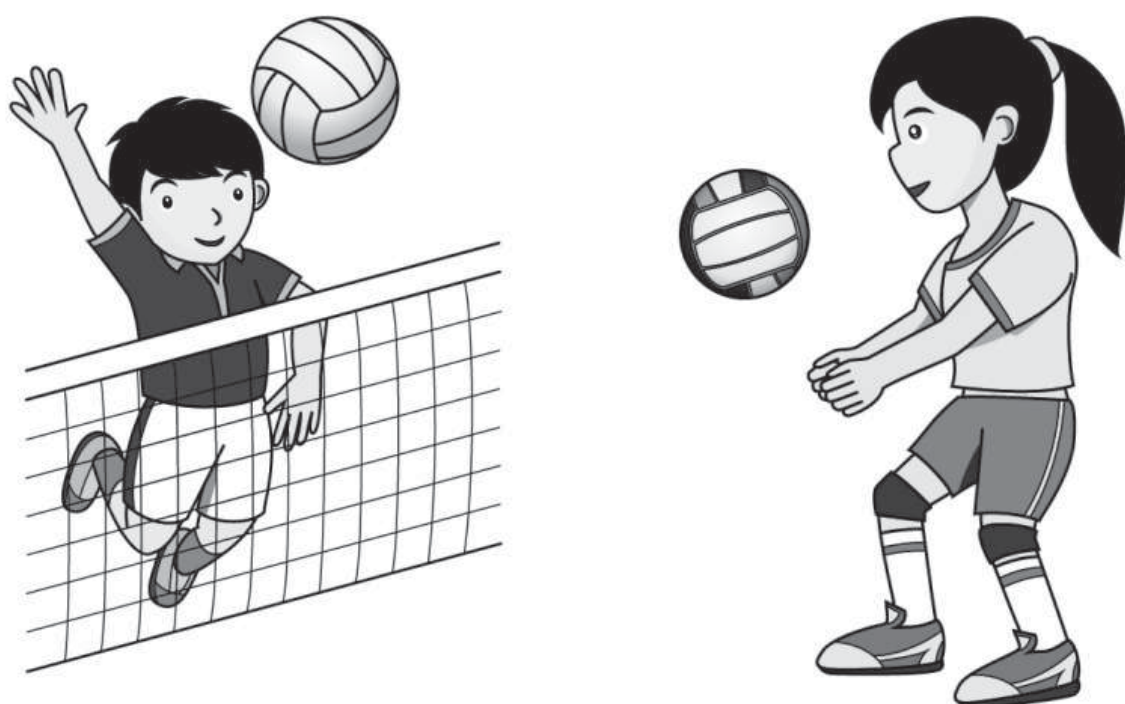
WEB サイトが
リニューアル!



山梨学院大学より車で5分
シャトー酒折ワイナリー株式会社

山梨県甲府市酒折町 1338-203
TEL 055-227-0511 FAX 055-227-0512

祝 日本バレーボール学会第24回大会



スポーツを愛する人を応援いたします。

(有)甲府スポーツ

〒400-0016 山梨県甲府市武田3丁目1-9

TEL 055-252-6556 FAX 055-252-6553

転換地点

あるはずの何かが見えない。

見えていないことさえ気づかない時もある。

簡単に「視点を変えろ」と言われても

安易な場所替えでは同じことだ。

汗と息切れと日頃の怠惰を恨む自戒の行程を経て

ようやく、見えていなかった事実が眼前に現れる。

手前味噌ながら、山梨はこの修験道のような行為が

身近に体験できる良い土地柄である。

老婆心ながら、お若いうちにぜひご体験あれ。



環境を守り、リサイクルを促進する。

Sawashou

総合解体・土木建設工事業

山梨県知事許可(般-28)第9001号 産業廃棄物収集運搬業許可番号1901120429号

サワショウ

山梨県南アルプス市飯野新田 832-1

〒400-0224

TEL.055-285-7590

<http://sawashou-555.com>



山梨学院大学

YAMANASHI GAKUIN UNIVERSITY

法学部 法学科 政治行政学科

現代ビジネス学部 現代ビジネス学科

健康栄養学部 管理栄養学科

国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科

スポーツ科学部 スポーツ科学科

大学院 社会科学研究科

詳しい情報はホームページをご覧ください。
スポーツ科学部 カレッジスポーツセンター



〒400-8575 甲府市酒折2-4-5 TEL.055-224-1234 www.ygu.ac.jp

チームスポーツの
ミーティング、
こんな困りごとは
ありませんか？

メンバーにチームの戦術を伝えにくい！

メンバー間で、チームの戦術理解に
ばらつきが出ている！

ミーティング自体の効率が悪い！

リコー インタラクティブホワイトボード (IWB) が、お役立ちします！



IWB



短焦点プロジェクター



BlackRams
RICOH RUGBY FOOTBALL TEAM

2017年、リコーラグビー部(ブラックラムズ)では、チームミーティングにIWBを導入しました。これにより内容の共有が円滑になり、戦術理解が増す事で、チームミーティングの効率アップに貢献しています。



全体ミーティング

今までレーザーポインター等で指摘していた部分に直接書き込んで、情報共有が可能。

書き込んだ内容を保存し、再利用ができるので前回のミーティングの続きを簡単に再開することが可能。

リコーの短焦点プロジェクターは、置き場所を気にせず、大きな会議室から狭い打合せスペースまで投影可能。



ユニットミーティング

PCからの映像をIWBに直接表示。映像に対して直接書き込みをしながらディスカッションが可能。

討議した内容をIWBに一時保存したり、PDF化して選手たちのアドレスへメールで送信することが可能。

PCからの映像をIWBに表示し、注目すべき箇所に指で書き込みをすると、書き込み部分をマーカー表示として一時的に画面に表示可能。

●PDFは、Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

リコーテクニカルコールセンター 0120-892-111 ©受付時間：平日(月～金)9時～17時(祝祭日、弊社休業日を除く) ※お問い合わせの内容は対応状況の確認と対応品質の向上のため、録音・記録をさせていただいております。

株式会社リコー
〒143-8555 東京都大田区中馬込1-3-6

「伝えたい」を「伝える」のが
私たちの仕事です。

発意用意 気発セザレバ、力生ゼズ、意用ヒザレバ、技ナラズ

かんたん2ステップで今すぐスタートできます

step 1 COCOAR2アプリをダウンロード(無料)
アプリをおとして、かざすだけ。


step 2 広告に設けられたマーカースキャン


Planning
& P
resentation

株式会社 **篠原印刷所**

太枠に合わせてスキャンしてください

私たちは
個人情報管理システムを構築
プライバシーマーク取得



私たちは
環境経営システムを構築
エコアクション21取得



株式会社 **篠原印刷所**

<http://www.shinohara-print.jp>

本社 | 〒422-8033 静岡市駿河区登呂6丁目7-5
☎054-286-5141 fax. 054-285-6261

MIPS事業部 | 〒422-8033 静岡市駿河区登呂6丁目7番30号
☎054-283-2330 fax. 054-286-1770

出版部/ISBN出版者記号978-4-901580
E-mail: info@shinohara-print.jp

祝 日本バレーボール学会 第24回大会

近畿日本ツーリスト

株式会社近畿日本ツーリスト関東

株式会社近畿日本ツーリスト関東
甲府支店

観光庁長官登録旅行業第2052号

〒400-0031 甲府市丸ノ内 2-1-1

Tel:055-228-7311 Fax:055-228-8600



DESCENTE



甲府市中央 1-1-5
TEL.055-233-4611

スポーツをみんなのものに
スローガンのもと、創立 55 周年を迎えます。

(株)サス・スポーツプロダクトは、スポーツ用品・体育衣料・学校制服の
販売、スポーツ施設の施行、スポーツイベントのサポートなどを中心に
皆様のスポーツライフや学校生活のパートナーとして、あらゆるニーズ
にお応えしております。



株式会社 **サス・スポーツプロダクト**

本社 〒101-0048
東京都千代田区神田司町2-17
電話 03(3233)3711(代表)
FAX 03(3233)3716
<http://www.sas-sports.co.jp>

The advertisement features a large, close-up image of a glass of beer with a thick head of foam. To the right of the glass is a can of Suntory Premium Malt's beer. The can is silver with black and red text. The background is dark.

水と生きる **SUNTORY**

神泡。

泡に出る。ビールのうまさは、

STOP! 未成年者 飲酒

ストップ! 未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。
お酒はなによりも適量です。のんだあとはリサイクル。☑

サントリービール株式会社 <http://suntory.jp/PREMIUM/>

公立大学法人
 都留文科大学

世界を見据え 地域に生きる

○文学部

国文学科:日本語と日本文学を通じて、日本文化の本質を探究。

英文学科:英語を使い、グローバルなビジネスシーンで活躍できる人材を育成。

比較文化学科:世界の様々な文化や社会の在り方を、比較の視点から学祭的に探究。

国際教育学科:21世紀型の教育を創造し、発信する。ひとを育てられる人材を世界に。



○教養学部

学校教育学科:「広い学び」と「深い研究」を両立し、得意分野を持つ教員を養成。

地域社会学科:地域で活躍できるグローバルな視点を持った人材育成。理論と実践を結びつける学びをアクティブに展開。

お問い合わせ

〒402-8555 都留市田原3-8-1
 TEL0554-43-4341
 FAX0554-43-4347
<http://www.tsuru.ac.jp>

ライフバル千葉は東京ガスの地域の顔として、ガスに関するワンストップサービスをご提供



**暮らしの
コンビニ宣言**

コンビニ感覚でいつでも気軽に使える、暮らしのサービスを取り揃えています。



浴室
洗面
トイレ
キッチン
照明
合議リフォーム
防災防犯
外装

東京ガスライフバル千葉 ☎ 043-204-4126

✦ 住まいのお困りことはライフバルにお任せ! ✦

 住まいの機器修理 ガス機器や住まいの機器の調子が悪い	 住まいの機器お取り替え ガス機器や住まいの機器を買い換えたい	 住まいのリフォーム 家の中を快適に、使い勝手よく暮らしたい
<ul style="list-style-type: none"> ▶ ガスコンロの火がつかない! ▶ 給湯器のお湯が出ない! ▶ トイレの水が止まらない! 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自宅で発電したい ▶ ガスコンロの掃除が面倒... ▶ 換気扇の掃除が面倒... 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 収納スペースが少ない(キッチン) ▶ 浴室や脱衣所が寒い... ▶ 収納が少ない(トイレ)


東京ガスライフバル千葉株式会社
 千葉市美浜区幸町1-6-8 TEL043-204-4126(代表)
<http://www.tglv-chiba.com/>

採用活動継続中!

私たちと一緒に働いてみたいとお考えの方はぜひご連絡ください。
 採用担当 小山田(おやまだ)



スポーツには、 心をつなぐ力がある。

選手の懸命な姿を見ると、私たちはいつしか自分を重ねてしまう。

その時私たちは、応援しながら、勇気をもたらしていることに気づく。

まだがんばれる。あきらめるな。可能性は無限だ。

また今日も私たちは、スポーツから大切なことを学ぶ。

山梨中央銀行

インターネット富士山支店

窓口にご来店いただくことなく、
インターネットで普通預金口座の開設が可能となるほか、
さまざまなサービス・特典をご提供いたします。

インターネット富士山支店の特徴

1 インターネットで完結！

普通預金の口座開設はインターネットで完結します
(来店不要)。口座開設時のお届印は不要です。
また、通帳・証書レスでのお取扱いとなります。

取扱商品

- 普通預金
- 定期預金
- 外貨普通預金
- 外貨定期預金
- 投資信託
- カードローン
(wakuwaku Smart)

※日本国籍をお持ちになり、日本国内に居住している満18歳以上のお客さまが対象となります。
(一部商品では年齢・居住地等の制限もございます。)

2 手数料無料！

当行ATM利用時の時間外手数料を無料とするほか、
コンビニATM手数料(時間内)および当行本支店間のお振込みも月3回まで無料です。

3 特典も充実！

インターネット富士山支店限定のキャンペーンなどのお得な特典もお届けいたします。

4 口座の管理はアプリで簡単・便利！

口座の管理は、スマートフォンアプリ(山梨中銀アプリ通帳with CRECO)をご利用ください。
本アプリから普通預金取引明細や残高を簡単・便利にご確認いただけます。



山梨県の魅力ある情報をHPで発信する専用サイト。



富士山や自然に関する情報、観光情報やグルメ情報を発信し、山梨の魅力をみなさまへ提供します。

■自然



■観光



■産業・文化



■グルメ



etc.***

株式会社 山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会



ふれあい、さわやか
山梨中央銀行

